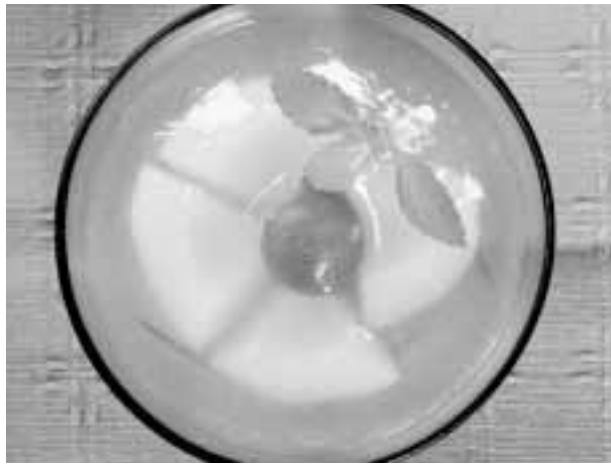


じっくり心をこめて

スロー フード

77



桃ゼリー

見た目も涼しげな桃ゼリー。夏休みに親子で一緒に作ってみてはいかがでしょうか？

《今月のご紹介》

関川村食生活改善推進員 の皆さん

材料 (2人分)

- ・モモ缶 1缶 ・プチトマト 適量
- ・粉寒天 1本(4g) ・水 適量

作り方

モモ缶は実と汁に分けておく。

モモは半分に切り、プチトマトは湯むきをして半分に切っておく。

粉寒天は大さじ1くらいの水に浸しておく。

缶汁と水を合わせて500ccにして煮立てる。甘味が足りなかったら砂糖を少々入れる。

にを入れてよく溶かし、ひと煮立ちさせる。

器に桃とプチトマトを入れ、を流し入れ固める。
(常温でも固まりますが、冷蔵庫で冷やすとより一層おいしくなります)

せきかわ文芸

短歌

父母逝きて幾年なるや里の墓地

須貝 恵美

杉の樹木の陰り寂しも

(高田)

テラスには朝顔ゴーヤのプランター

佐藤 庄七

水を溜らすな追肥は未だか

(愛広苑)

新しき小学校の作りたる日陰に入りて

小池 啓子

大きさを知り

(下関)

良寛の手植えの菩提樹枯れ枯れて

渡辺千恵子

たま継ぐごとく若芽もえ出ず

(上関)





山口忠吉は関川村議会副議長をはじめ、関川村農業委員会委員、関川村土地改良区理事長などの要職を務め関川村の産業、福祉、文化の向上に多大な貢献

近・現代 関川郷の人びと

執筆者：佐藤貞治（「せきかわ歴史とみちの館」館長）

山口忠吉

をした。

大正三年十一月十七日関川村土沢に山口長五郎の二男として生れた。昭和六年三月関谷村立関尋常高等小学校高等科を卒業。昭和四十二年八月に衆望を担って関川村議会議員に就任。以来昭和六十二年七月までの間五期二十年の永きにわたり活躍。

特に昭和四十六年文教常任委員会副委員長に就任。金丸小学校改築事業や関谷中学校改築事業をはじめ教員住宅整備、地区プールの整備など村の文教施設整備に力を尽くした。

また昭和五十八年八月から二年間産業経済常任委員会副委員長を務めた。当時は関川村の第二期山村振興や第二期準過疎地域総合整備計画が策定された時期で、山口忠吉はその策定に深く関わり、村の施設整備に寄与した。昭和五十一年は冷害と台風十七号の影響で農作物に多大な被害がでたが、副委員長として被害の把握に努め、近代化資金の延納や共済金の早期支払いに努めるよう要請を行った。

昭和五十五年十月四日から昭和六十二年七月三十一日の間に三度にわたり、その公平無私の性格が買われ副議長に選任された。この間畜産公害問題に起因して進められた畜産団地の建設関川バイパスの事業推進や大石

ダム湖畔県民休養地の事業推進に尽力したほか、いで湯の関川ふる里会設立や首都圏関川村人会設立など都市との交流事業の推進にも尽力した。また半導体製造関連工場である関川東芝セラミックス(株)やわかぶな高原スキー場の誘致においては村執行部と協力して成功に導き村の発展に大きく貢献した。

議員以外の功績として昭和三十六年から九年間関川村農業委員会委員としての職責を全うした。そして昭和五十年四月から十六年間関川村土地改良区理事を務め、うち昭和五十七年十二月から八年三ヶ月理事長を歴任し、大堰用水路の改修事業を実施。下関、上関地区の農業用水の安定確保を図った。その功績は大きい。また昭和四十九年一月から九年間上土沢集落の総代を務め、住民の要望・意見を取りまとめ適切な指導を行うと共に、村内で初めての郷単位のコミュニティ組織「霧出郷コミュニティ」を立ち上げた。平成十四年十二月一日勲六等単光旭日章を受章。平成二十年一月二十三日九十三歳でこの世を去った。

山口家の系図
先祖：倉五郎

長五郎

忠吉 新一

せきかわ文芸

関川俳句の会作品

窓からは青田波打つ風見えて

渡辺しづい

川越の蔵街巡る夏帽子

渋谷 くに

旅に在る子の戻るがに燕来る

南 セツ

草影に隠れ遊ぶや青蛙

青木 慶一

起きぬけの目にひらけたり青田原

五十嵐貞子

せきかわ柳会作品「変化」「目立つ」

お中元姿を変えて回り道

渡辺しづい

帰省して逢ふ人みんな標準語

南 セツ

あじさいの変化楽しむ老いとなり

平田 千恵

少子化に妊婦の姿宝物

本間 イミ